

「令和2年度 神奈川県立高等学校等生徒学力調査」及び「令和2年度 神奈川県立高等学校及び中等教育学校 生徒による授業評価」の結果について

「神奈川県立高等学校等生徒学力調査」及び「生徒による授業評価」の結果を報告します。各県立高等学校等においては、これらの結果を活用することで、組織的な授業改善を一層推進し、「確かな学力」の育成に取り組んでまいります。

(1) 生徒学力調査の概要

目的	高等学校学習指導要領(平成21年告示)の各教科・科目の目標、内容に照らした生徒の学習状況及び生徒の学習に対する意識についての調査を行い、継続的に把握・分析することにより、各学校における授業及び教育活動全般の一層の改善と充実に資する。
対象	県立高等学校全日制の課程 135 校の2学年、定時制の課程 20 校の2学年及び県立中等教育学校後期課程2校の第5年次に在籍する生徒全員(約 3.9 万人)
調査期日	令和2年11月中の学校が定めた日
内容・方法	教科に関するペーパーテスト調査 国語、数学、外国語(英語) ○ 「国語総合」、「数学Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅰ」の内容を中心に出題している。 ○ 生徒の実態に合わせた調査にするために、各教科とも4割程度を選択問題(基礎、標準、発展の3区分)とし、各学校が選択して実施している。 アンケート調査 ○ 「教科に関するアンケート調査」……教科の学習の取組に関する調査 ○ 「学習全般に関するアンケート調査」……日常的な学習習慣に関する調査

(2) 「教科に関するペーパーテスト調査」の結果の概要

教科名		国語	数学	外国語(英語)
実施年度	区分	区分ごとの正答率 ※()内は、平均正答数/出題数	区分ごとの正答率 ※()内は、平均正答数/出題数	区分ごとの正答率 ※()内は、平均正答数/出題数
令和2年度	基礎	41.2% (10.3/25問)	10.8% (2.7/25問)	30.4% (7.3/24問)
	標準	54.8% (13.7/25問)	25.2% (6.3/25問)	47.1% (11.3/24問)
	発展	63.2% (15.8/25問)	26.8% (6.7/25問)	61.5% (16.6/27問)
令和元年度	基礎	45.7% (11.9/26問)	16.9% (4.2/25問)	49.7% (11.9/24問)
	標準	48.4% (12.1/25問)	20.4% (4.9/24問)	38.9% (9.3/24問)
	発展	60.9% (15.2/25問)	37.5% (9.0/24問)	56.9% (13.7/24問)

<分析>

- 「基礎」「標準」「発展」のいずれの区分を選択した学校においても、依然として思考力・判断力・表現力等の育成に係る課題が見られた。数学の正答率が他と比較して低いのは、記述式問題を中心に構成しているためであると考えられる。
- 各区分において、教科ごとに正答率の増減は見られるものの、依然として基本的な学習内容の定着が十分でないと考えられる。

<課題の改善の方向性>

- 各学校は、調査の結果から思考力・判断力・表現力等の育成を図る上での課題を把握し、改善方策を令和3年度の授業改善に反映させていく。
- 生徒の学力の詳細を把握し、学習の各段階における定着の度合いが測れるものとなるよう、調査内容について更に工夫していく。

(3) 「学習全般に関するアンケート調査」に追加した項目の結果

- 今年度の「学習全般に関するアンケート調査」では、臨時休業期間中の生徒の学習の状況に関する項目を4問追加し、生徒の家庭学習の状況を把握した。

「学習全般に関するアンケート調査」に追加した項目と回答の割合

(11) 休校期間中、あなたが最も力を入れて取り組んだ学習内容を一つ選んでください。	
1 昨年度までの学習内容の復習	7.7%
2 今年度の学習内容 (学校から示された課題やオンライン授業を含む)	60.4%
3 進学・就職等に向けた学習	6.6%
4 自らの興味・関心に応じた学習	25.2%

(12) 休校期間中、あなたは、主に何を活用して学習に取り組みましたか。	
1 教科書、副教材を活用	57.3%
2 参考書等を活用	11.5%
3 ICTを活用	11.1%
4 1～3以外	20.1%

(13) 休校期間中のあなたの1日の学習時間について、最も当てはまるものを一つ選んでください。	
1 1時間未満	38.1%
2 1～2時間程度	42.3%
3 3～5時間程度	16.6%
4 6時間以上	3.0%

(14) 休校期間中、あなたが取り組んだ学習について、どの程度身に付いたと思いますか。	
1 十分身に付いた	6.1%
2 まあまあ身に付いた	49.2%
3 あまり身に付いていない	32.5%
4 身に付いていない	12.3%

(注) 回答の割合は、小数第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならないことがある。

<分析>

- 臨時休業期間中に、生徒が最も力を入れて取り組んだ学習内容は、学校から示された課題やオンライン授業が最も多くなった。進学・就職等に向けた学習が最も少ないが、これは今回の調査は2学年の11月に行っていることが影響していると考えられる。
- 臨時休業期間中に、生徒が主に活用した教材については、学校で使う教科書、副教材が最も多く、自学自習のためのアプリなどICTの活用が最も少なかった。これは、臨時休業期間中に学校が出す課題や授業動画への対応が必要だったため、学校で使用する教科書や副教材が多くなったものと考えられる。

<課題の改善の方向性>

- 臨時休業期間中の家庭学習は、生徒の自主性、自律性に頼るところが多く、生徒により差が生じることも考えられる。そのため、授業内容や課題を工夫するなどにより、誰もが一定時間取り組み、学力の定着が図れるよう、工夫ある取組の研究や実践例の集約・普及に取り組んでいく。

(4) 生徒による授業評価の概要

目的	生徒の確かな学力を育成するため、各学校における教員の指導力の向上や授業の改善を図るとともに、生徒自らが学習への取組を見つめ直す機会とする。(平成17年度より実施)
対象	全県立高等学校及び中等教育学校(139校、157課程)の全生徒(約11.8万人)
調査期日	第1回目は8月～9月、第2回目は12月～1月の各学校が設定した日
内容・方法	各学校において、授業の在り方・学習の状況について、「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」「あまり当てはまらない」「ほとんど当てはまらない」の4段階の評価によるアンケート方式で実施した。 結果を集計・分析した上で、校内研修等を実施し、結果を生徒・保護者・学校運営協議会等に公表する。

(5) 生徒による授業評価の主な結果

＜共通教科における「かなり当てはまる」と「ほぼ当てはまる」の合計の割合＞

大項目	共通小項目	令和元年度	令和2年度
授業の在り方について	毎時間の授業や単元(内容のまとまり)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある	84.0%	86.4%
	単元(内容のまとまり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある	81.9%	83.1%
	単元(内容のまとまり)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある	84.2%	86.3%
学習の状況について	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた	83.9%	86.2%
	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた	81.4%	82.7%
	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた	83.0%	85.4%
	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた	84.6%	87.1%

- 肯定的な回答の割合が、すべての質問項目において80%を超えている。このことから、多くの生徒が授業に前向きに取り組んでいることが分かる。また、各学校における組織的な授業改善には一定の成果があり、学習指導要領の改訂に伴う移行期間中の教育活動が引き続き着実に行われていると考えられる。
- 全ての項目について昨年度より肯定的な回答の割合は増加している。肯定的な回答の割合が最も高いのは「授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた」という項目であり、個別の事実的な知識の習得にとどまらず知識相互のつながりを意識し、学習内容の本質を理解しようとする姿勢をもつ生徒が多いと考えられる。

＜課題の改善の方向性＞

- 「単元(内容のまとまり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」、「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」という2項目の肯定的な回答の割合が、他の項目と比べてやや低い。生徒一人ひとりが他者の考えを知り、自らの考えを広げ深めることができるよう、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な授業改善の取組を、各学校でより一層積極的に推進していくことが必要である。